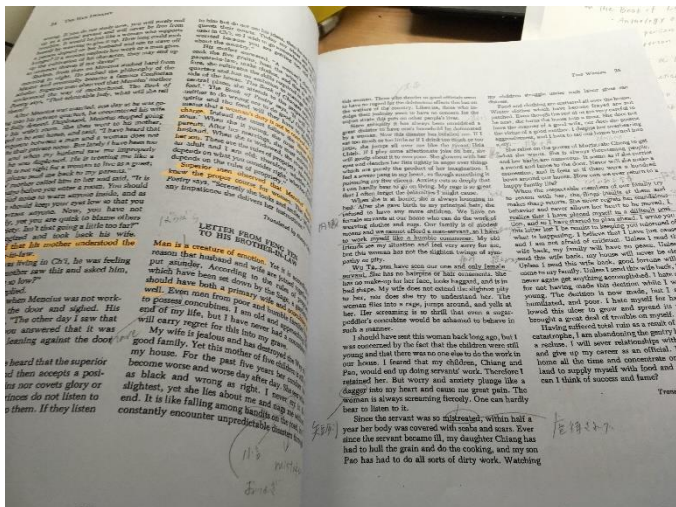


# 福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（5月）

留学先：東呉大学

こんにちは！台湾での生活も残り一か月を切りました。4回目の月例報告書です。今回は前回の月例報告書と同様に、現在私が東呉大学で受講している6つの授業の中から3つを紹介したいと思います。今回は中国語・Gender Studies・Global Public Policy について説明したので、今回は中国文化研究・日本文化概論・Student mobility: perspectives of intercultural competences の3つについて説明します。興味がある方は前回の月例報告書も見てみてください。

**【中国文化研究】** この授業はインターナショナルカリキュラムの1つとして、主に留学生向けに開かれた授業です。（もちろん台湾の学生も受講できます）中国人の考え方や、それに基づく世界観を歴史的背景から考えていく授業です。授業を行う先生が歴史学部所属なので、過去の文献や思想からの引用が多く感じます。それらを通して中国の言語や宗教、哲学について学びます。



この授業では、1セメスターの中で三回レポートの提出をすることを求められます。初回の授業で購入した(200元)、中国の歴史と文化についての文献が纏められた Source Book の中から、指定された文章を読んで、それに対する感想や考察を書く、という内容です。この Source Book は先生が生徒に読んで欲しい文献をまとめて冊子にしたものなので、これを読むだけでもかなり勉強になると感じます。添付した画像がその Source Book です。一冊170ページ近くあるので、もちろん授業で取り扱わない内容のものも含まれています。

**【日本文化概論】** この授業は日本語学科対象の授業ですが、英語開講科目なので留学生も受講することができます。主に、日本の文化について学ぶ授業です。1つのセメスターで終わる授業ではなく、一年を通して日本の伝統文化・サブカルチャーについて学ぶことができます。（一年受講する前提で授業が行われますが、半年だけ受講しても1セメスター分の単位は取れます）

シラバスを読むと、前期の授業内容の方が広義的、後期の授業の方がやや専門的かな、と感じます。私が受けている後期の授業では、日本人形と歴史・芸術・教育制度・政治・日本文学・映像・漫画について学ぶことができます。日本にいとあまり分からない客観的な視点から日本文化を学ぶことができるのは貴重な機会だと思います。画像は授業風景です。台湾の日本語学科の学生もアニメや漫画が好きなので、前回の授業で日本のアニメーションについての動画(日本語版と英語版の



セーラームーンのオープニング映像の比較)を見た時に、ほとんどの学生が普通にセーラームーンを知っているという表情を浮かべていたのが印象的でした。

ちなみに中間試験はペーパーで行いますが、後期試験はプレゼンテーションです。

#### 【Student mobility: perspectives of intercultural competences】

この授業はインターナショナルカリキュラムの1つですが、台湾の学生も多く受講しています。学部縛りの授業ではないので(福井大学で言う所の一般教養の授業のタイプと似ています)ので、色々な学部から学生が集まっています。この授業では、言語や文化、社会の流れを分析するという内容です。主に東南・東アジア地域間での国際交流とそれによる影響について様々な観点から学びます。リーディングから要点を読み解くレポートが5回ほど課され、また最終課題ではグループ各自でインタビューやアンケートを行った結果から、レポートを作成することが要求されます。課題の量が多く、毎週大変だと感じます。

しかし、時々外部からゲストスピーカーが呼ばれます。彼らは文化・言語交流において専門的な立場の人々で、東南アジアの実情や、台湾のハラルに関する話を聞くことが出来ます。文献だけではない、実地的な藩士を聞けるのでとても面白いです。また、この授業はどんな学部の生徒も受講できるので、日本語学部の生徒だけではなく色々な学生と交流出来る良い機会だと思います。

今回は、前回紹介した授業に続いてもう三つの授業について説明しました。やっと授業についての説明が終わったと思ったら、あと一回しかこの月例報告書を書く機会が無いんですね。もう少しでこの留学生活も終わると思うと感慨深いものがあります。引き続き健康に気を付けて生活していきたいと思います。暑すぎるので。それではまた次回お会いしましょう！